

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2022年10月7日）

■第1版 第2刷（2018年3月15日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodoshya.co.jp/correction/9784758123198_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
特集：なんとなくDoしていませんか？骨粗鬆症マネジメント 「今日からはじめる、転倒予防」					
79	2)- a) 白内障・緑内障 の8～11行目	2012年のコクランレビュー ⁸⁾ において、視野評価と検眼の転倒予防効果はRR <u>0.81(95%CI:0.68～0.97)</u> で骨折予防効果があるかどうかは不明です。一方、視力検査と検眼は転倒がRR <u>0.81(95%CI:0.68～0.97)</u> 、骨折がRR 1.73(95%CI:0.96～3.12)で <u>いずれも予防効果がありました。</u>	2012年のコクランレビュー ⁸⁾ において、視野評価と検眼の転倒予防効果はRR <u>1.57(95%CI:1.19～2.06)</u> でむしろ転倒が増えるという結果でした。一方、視力検査と検眼は転倒がRR <u>0.91(95%CI:0.77～1.09)</u> 、骨折がRR 1.73(95%CI:0.96～3.12)で <u>いずれも予防効果があるかどうかは不明です。ただし、このコクランレビューにおいて組み入れられた研究は1件しかなく、この結果のみをもって視野・視力検査と検眼に転倒・骨折予防効果はなく、むしろ転倒を増やすとまでは言えません。</u>		18/08/06
79	2)- a) 白内障・緑内障 の17～19行目	定期的に患者さんにももの見え方について尋ねてみて、視力の低下や視野の狭窄が疑われる場合などは、 <u>積極的に眼科を受診することをお勧めするのがよいでしょう。疾患があった場合には眼内レンズ挿入術など、これを治療することで転倒を防ぐことが可能になります。</u>	定期的に患者さんにももの見え方について尋ねてみて、視力の低下や視野の狭窄が疑われる場合などは、 <u>眼科を受診することをお勧めしてもよいかもしれません。</u>		18/08/06
特集：なんとなくDoしていませんか？骨粗鬆症マネジメント 「総合診療医に求める骨粗鬆症の診療 歯科医の立場から」					
112	「インターネット上の偏った情報に注意しよう」の囲み 7～8行目	基本的にビスホスホネート製剤の効果は骨への不可逆的な結合なので、休業によって <u>骨折</u> のリスクを減らすのは期待しにくいです。	基本的にビスホスホネート製剤の効果は骨への不可逆的な結合なので、休業によって <u>MRONJ</u> のリスクを減らすのは期待しにくいです。		22/10/07